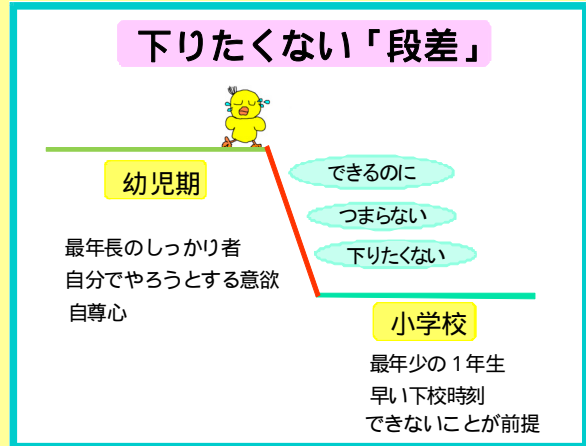
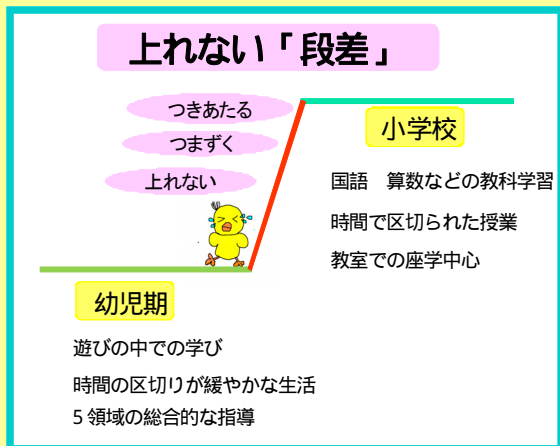


# みんなで考えよう!! 学びをつなぐ幼・保・小連携



小学校に入学するときに、子どもが感じる「段差」について考えてみましょう。

就学を境に生じる「段差」を2つの面から考えてみます。



幼稚園や保育所で生活していた子どもが小学校に入学すると、様々な違いに出会います。左の図は、上れないと感じられる段差で、遊びを中心とした幼児期の学びから、教科や時間に区切られた小学校の学びへというような、主に学習面での移行です。一方、右の図は、下りたくないと感じられる段差で、有能感に満ちた年長児が、最年少の立場の1年生として扱われるような、主に生活面での移行です。

## ☆この段差を滑らかなものにするためには？

小学校では、特に入学当初、生活科を中心としたスタートカリキュラムや国語・音楽・図画工作などで、幼児期の表現や言葉に関する内容を意識した学習活動の充実を図っていきましょう。幼稚園や保育所では、年長児における協同的な活動の充実など、就学を意識したカリキュラムなどを考えていきましょう。



## ☆段差は、ない方がいいの？

子どもにとって、1年生になる期待や小学校への憧れは、とても大切なものであり、**子どもの成長には、背伸びとジャンプが必要です。**

「段差」をすべて取り除くのではなく、子どもが幼児期に身に付けた力で対応できるような、滑らかな「段差」にすることが大切です。

このリーフレットは、幼稚園・保育所から小学校への子どもの学びをつなぐために作成したものです。就学を境に幼稚園や保育所での学びが途切れることのないよう、また、小学校でゼロからのスタートとしないための手立てを一緒に考えましょう。



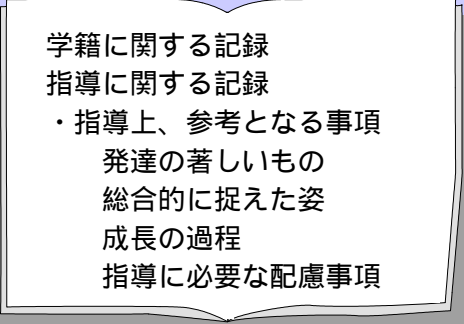
# 入学に際しての子どもに関する情報伝達について、考えてみましょう。

ここでは、幼稚園や保育所から送付する幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録と、口頭で幼児の様子を伝える情報交換会の2つの側面から説明します。



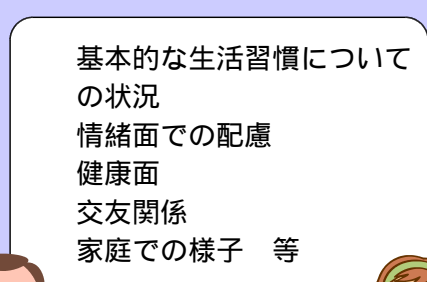
A児の入学について、考えてみます。

## 指導要録・保育要録の送付



A児の学びを保障するための資料

## 口頭での情報交換会



学級編成や学級経営に生かす資料

### ☆指導要録・保育要録は

子どもの学びを保障するための資料として、小学校で有効に活用されます。では、1年生の担任には、A児についてのどのような内容が役立つのでしょうか。



例えば、**・運動会では、苦手なかけっこも一生懸命走り、メダルをもらって喜んでいました。**は、小学校の先生にとって、指導に生かせる内容でしょうか。下の3つの視点を加えてみます。

運動に関するA児の課題

一生懸命走るようになった過程

教師の具体的な援助の方法

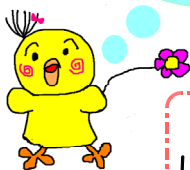
・進級当初は外遊びが苦手でしたが、教師が園庭で一緒に遊んだり、仲良しの友達と鬼ごっこを楽しんだりすることを通して、少しずつ、体を動かす気持ちよさを感じるようになりました。

これなら、1年生の担任が体育の指導をする際の手助けになります。また、入学当初の言葉かけの参考にしたり、休み時間の過ごし方を見たりすることもできます。そうすることで、A児の中に育ってきた運動や体を動かすことへの意欲が継続されます。

### ☆口頭での情報交換会は

子ども一人一人が集団の一員として活躍するための学級づくりや学級編成の資料となります。幼稚園・保育所と小学校の教職員が顔を合わせて双方向性のある情報交換をし、学級経営に生かせるものとしましょう。

小学校の先生が、入学前の幼児の育ちや学びの様子を知ることで、子どもの学びが0（ゼロ）からのスタートでは、なくなります。



指導要録・保育要録と情報交換会等の双方の情報を有効に活用して、子どもの学びをつなぎましょう。





## 幼児と児童の双方に実りのある交流活動について、考えてみましょう。

小学校生活科「秋祭りへようこそ」の交流活動の例をもとに、幼児と児童の双方にとっての交流の意義を考えます。

### 秋祭りへようこそ（第2学年・生活科）

小学校2年生が落ち葉や木の実などを利用した遊びのコーナーやお店屋さんを用意し、そこに幼稚園・保育所の幼児を招いて、一緒にお祭りを楽しむ活動

2つください。

幼稚園・保育所のねらいは？

単なる  
お客さん？



いらっしゃい。  
2つで60円です。

小学校のねらいは？

幼児とのかかわりで、思いやりの気持ちをもったり、自分の成長に気付いたりする。季節の変化や自然を感じる。表現力やコミュニケーション能力を養う。

交流活動では、幼稚園や保育所の幼児が、小学校に招待される形が多く実施されてます。その際、活動計画は、全般的に小学校が作成し、幼稚園・保育所は、どちらかという招待される立場で「お客さん」になりがちです。さらに、幼児にとって意義のある交流にするための工夫が必要です。

### 実りある交流にするための4つのポイント！！

☆事前に、幼稚園・保育所と小学校の双方のねらいを互いに理解しましょう。

- ・計画書のやり取りだけでなく、保育のねらいと授業のねらいを互いにきちんと伝えましょう。

日時や場所も大切ですが、ねらいの理解が必要です。

☆交流活動中は、先生同士も交流しましょう。

- ・子どもの姿を一緒に追ってみると、見取りや評価の参考になります。
- ・交流先の幼児や児童に対しても、声をかけるなど支援しましょう。

互いの子ども観や教育観が理解できます。

☆事後に、実施した交流活動について話合う機会をもちましょう。

- ・交流して終わりではなく、活動内容や子どもの様子について、時間を設けて話し合しましょう。

次年度の交流にも生かされます。

☆交流活動を年間指導計画に位置付けましょう。

- ・苦心していた日程調整に要する労力を軽減できます。

継続した取組につながります。

#### 〈 幼 児 〉

小学校へのあこがれや期待がふくらみます。交流で経験したことを遊びに生かします。

#### 児 童 〉

思いやりや優しい気持ちが育ちます。自分のよさや成長を実感します。

交流をすることによって、幼児と児童に育つものは何か、その時間にどのような学びがあるのかというねらいを、教師がしっかりとつことが重要です。



お問い合わせはこちらへ

栃木県総合教育センター  
幼児教育部  
(栃木県幼児教育センター)  
T E L 028-665-7215  
F A X 028-665-7216